

# 令和3年度第1回高梁市公共交通会議議事録（要旨）

日 時：令和3年10月8日（金）10：00～11：30

場 所：高梁市役所 3F 大会議室

## 1. 開 会

会議成立報告（出席委員13名・専門委員3名）

## 2. 役員の互選について

互選の結果、会長は藤澤氏、副会長は肥田氏に選任

## 3. 会長あいさつ（藤澤会長）

## 4. 議 事

議事1 令和2年度生活福祉バス・ふれあいタクシー利用者数の推移（報告）

（質疑・意見等）

- ・特になし

議事2 高梁市タクシー利用助成制度（実証事業）利用状況及び利用者アンケートについて（報告）

（質疑・意見等）

- ・専門委員：実証ということであるが、本格導入に向けて一定の基準を設けているか。  
→事務局：バス等の代替手段として他地域の導入を視野に入れているが、各地域で距離により利用料金が大きく変わり、公的な支援のあり方を実証の中で探っている状況です。
- ・専門委員：3年前にタクシー利用助成について大学と研究をした経緯があるが、広島の高原町の事例で、乗合タクシー事業等も不振で1運行7～8千円かかる状況のなか、タクシー助成に全て切り替え、600円を超えた料金は市が負担した。結果、高齢者の外出機会が爆発的に増え、商業施設での経済効果、タクシー事業者（町内6社）の売り上げが平均55%上昇した。運輸業界の人員不足の解消につながった。しかし、需要と供給のバランスのなかでタクシー事業者の受け入れ体制が課題で、本格導入に向けては検討が必要。  
→事務局：興味深い事例で、県内では美作市で半額利用助成という事例もある。今の事例の中で600円という金額は何か基準があるのか。
- ・専門委員：当初500円であったが、初乗り運賃の値上げで600円ということで、財政的にも調整された。大きな課題は財源措置で、特別交付税の対象でないことが挙げられる。国交省でバス・乗合タクシーの財源措置があるが、タクシー利用助成の財源措置を求める要望もあり、本省でも検討されており将来的な財源措置の可能性はあるが、総務省でも特別交付税の対象という検討もあるようです。
- ・委員：高梁市ではリソースを抱えるバス事業者と小規模なタクシー事業者という構図がある。2種免許をもつ人材で見たときに、認可という高いハードルがある。市が良いサービスを

作ったとして、リソースをうまく利用しようとしても簡単に事業を始められない実際の現状がある。例えば中山間地域においてはフレキシブルにリソースを使いまわせるように緩和できるならば将来的に取り組める状況が生まれる。リソースをシフトするような良い事例があれば教えてほしい。

- 専門委員：事例がすぐにはないが、過疎地域の地域交通の姿として、現状は一律の基準を引いた運用ということではあるが、本省でも地域交通活性化再生法の改正によって地域の交通資源を総動員していく方向が示されており、各地方運輸局からも地域の公共交通会議で合意が諮られたものはある程度ハードルを下げた運用ができないかという声もある。貴重なご意見として伺っておきたい。

### 議事3 令和3年度の路線見直し状況及び見直し検討路線について

(質疑・意見等)

- 委員：4条路線バスの減便廃止が拳がっているが、その後福祉バスになるのか乗合タクシーになるのか、そこを明確にして地域に事前に説明しながら進めていただきたい。川上町の福祉バスですが、学校休業日にもほぼ部活で利用している状況で、休止にする意味があるのか、実際は土日でも部活利用で教育委員会から貸し切り扱いで運行を依頼されるが、路線バスの料金しかもらっていないのが実態なので、兼ね合いをよく意見調整して進めていただきたい。そのあたりお互い高梁市の負担にならないようなやり方を検討してほしい。  
→事務局：交通空白地帯を生まないようにというご意見には地域ごとに適した手段の検討、また事前に地域への丁寧な説明も必要と思います。川上地域については教育委員会とも話し合いながら効率的な運行について協議していきたい。
- 委員：山際の路線について小・中学生利用はあるが、その子供たちも高校生になる。そういった将来的なことも考えて検討してほしい。事業者としても市内高校の終業時間の変更要望を踏まえてダイヤ運行をしている。また、近隣市町村とも十分調整をしてほしい。  
→事務局：高校のあり方検討協議会などもあり、情報共有し、移動手段のみでなく市内高校にきていただけるような総合的な支援策を教育委員会とも協議していきたい。吉備中央町は市外通学についても通学支援しており、近隣自治体とも協議しながら進めていく必要がある。
- 委員：見直しが備中町に偏っているイメージがあり、バス便も少なくなり、どうやって生活していったらいいのか不安がある。特に平川地区について以前から地域の声を聴いてほしいという意見を言っているが、もっと生の声を聞いて進めてほしい。  
→事務局：備中町に偏っているイメージがあるが、今回廃止の4条路線は備中中学校の統合により利用が激減した便の廃止となっている。備中地域のコミュニティ協議会で説明を行ったり、平川地区の代表者とも話し合いをした。平川・高梁間の路線については、平川から川戸の区間の利用がどのくらいあるかがポイントであり、引き続き話し合いを継続していきたい。
- 藤澤会長：十分地域の声が聞こえているかということに関しては、行政としてはそういう立場でやってまいりましたが、今後より一層そういった地域の声を政策に反映できるように取り組んでいきたいと思えます。

#### 議事4 グリンスローモビリティ実証調査事業の実施について

※追加資料により説明

(質疑・意見等)

- ・委員：公共交通の多様性を求める点から言えば私は賛成であるが、実際に高梁には向かないのではないかと思う。まず時間設定には、実際に試走を十分行わないといけない。高梁では踏切を越えようとするすると運輸局の基準では今のバスは走れないので、昔のバス車両で今も運行している。今の基準のバスは伯備線の踏切を越えられないという理由がある。

次に実証ということだが、実証には都合のいい期間で、観光客も見込める時期だが、ならば高梁駅を起点に考えるべきで、市役所起点はおかしいのではないか。また、市街地の南回り線は以前にも公共交通会議で承認を受けバスの実証運行を行ったが、まったく利用者がいなかったにも関わらず、同じことをするのか。南回りには重要な拠点もあるが、低速車両が走れば一般車両の通行を阻害する恐れもある。そんなものを将来的に導入していきうというのは無理があるのではないか。公共交通の多様性は必要だが、高梁の道路状況の整備が追い付いていないというところも考えないと、危険な交通状況に成り得るということも考えてほしい。

→事務局：時刻設定については、納車が10/29で11/2から実証運行という条件の中で、想定時刻で設定せざるを得ない。踏切については、本事業の採択により国委託のコンサルタント業者がアドバイザーとして付いて、ルートの下見を行った上で設定している。実証時期については観光客も含めて利用者を見込んで設定しているが、雨風・気候に弱い車両ということが言える。

また、ご指摘のとおり高梁駅を起点にすべきという点については、グリantro車両は、頻繁に充電を行う必要がある車両であり、家庭用200Vの充電設備が市役所周辺にしか準備できないため、時間のロスを防ぐために市役所起点としている。

南回り線の実証については、数年前に行き、利用者は低調で実現には至りませんでした。しかし近年市街地の店舗の閉店も受け、買い物不便の声も聞かれており、今回の実証の中では実際に南回りの需要があるのかも検証のひとつで、需要があればグリantroに限らず、別の手段も含めて需要に対応していく必要も考えられる。まずは実証で意見を求め次のステップへつなげていきたい。

- ・藤澤会長：いろいろな制約の中で今回の実証を行う。委員皆様にもぜひ乗っていただいて、様々な意見をお聞かせいただきたい。
- ・専門委員：国土交通省の資料のなかにある笠岡市北木島に実際にグリantroに乗りに行ったが、感想としてグリantroはマッチするところしないところがはっきりする乗り物で、気候に対応する工夫も必要。また、鞆の浦のアサヒタクシーのグリantroは、観光シーズンによって利用状況がはっきり異なる状況の様子。石見銀山でも導入されているが、雪の時期には運行できないこと、また同時並行でレンタサイクル事業もしていたが、交通事業者の運行とバッティングして収益に影響するような共倒れが危惧される状況は避けていただきたい。

→事務局：昨日までに巡回する施設などに説明をさせていただき意見もいただいているが、今のところまずはやってみようと言うことで、良い意見も悪い意見もあるだろうが、初め

てやることなので、乗っていただいて様々な意見をいただいて整理したい。実証するということは本格的な導入を目指したいと思いますが、導入には様々な方法があり、事業者が運行し、市が支援する形、市街地で実証したから市街地で導入するとは限りませんし、松山城・吹屋・弥高山などの観光スポットで取り組むなど総合的に活用方法を考えて、まちを元気にできればいいと考えます。

- ・藤澤会長：本件は、公共交通会議の承認ということだけでなく、国の実証事業を受けて実施するものですので、委員皆さんの意見を十分参考にして事務局で取り組んでください。

## 5. その他

- ・委員：高梁市のなかで地域の交通資源が枯渇してきており、その資源をどう有効活用していくか。事業者も様々あり、バス・タクシーや地域コミュニティ・シルバー人材など様々な交通資源に対し、高梁市がこういった支援ができるかを明確にしておかないと、バスをタクシーをどうするかという議論を延々とやっていかないといけない。高梁市が魅力的な都市をつくるために交通資源・交通手段を確保していくこと、守っていくことを明確にすることで、交通労働者も安心して仕事ができる環境になる。継続的なものにするために減らすところは減らす相互理解で進めないと、地域ごとの競争になっているのではないか。これだけは守っていくというものを高梁市が示すことが重要になり、それによりバランスがとれるのではないか。今以上に行政が主体的に提言をしていただくようお願いしたい。
- 事務局：ご指摘のように交通事業者・コミュニティ・行政も総合的に考えていきたいと思えます。ひとつご紹介ですが、巨瀬地域で地域活動車を導入し、生活福祉バスにかわる地域の移動支援、災害時の支援、コミュニティ維持を総合的にやっていきたいという提案があり、魅力的な取り組みと考えています。行政としてこういった支援ができるのか検討も必要と考えますし、巨瀬地域で11月に実証実験を行うということで、結果も見ながら、他の地域への波及も期待できる事業と思えますので、ご紹介します。

## 6. 閉会（肥田副会長）